畿央大学

健康科学部
人間環境デザイン学科

第15回 卒業制作・論文作品集

卒業制作・論文作品集　15

幾央大学健康科学部
人間環境デザイン学科
2020

The 15th Graduation Works & Theses
Department of Environmental Design
Faculty of Health Sciences
Kio University

ご挨拶

第15回卒業制作・論文作品集には、この春卒業する人間環境デザイン学科の卒業制作と論文の作品が収録されています。

コロナウイルス感染拡大防止のため教育・生活環境に大きな制約があったものの、深く考え独創的なものを生み出せるきっかけにもなる可能性があり、展示や発表会を楽しみにしていました。

制作物や発表は昨年に比べ色彩が鮮やかであり、プレゼンテーションも編集された動画が使われていました。この変化はコロナ禍の中で動画配信技術が急激に発展したことが背景にありますが、学生の皆さんがそれらの技術を活用することができ、その中で新しいものを作り出すことができたからであろうと思いました。

学生の皆さんの自己評価には幅があると推測しますが、オリジナルなものを作り出せた実感はもてたと思います。何を制作し何を主張するか決めた経験は貴重です。

卒業される皆さんは、始まりつつある新しい社会の中で幅広いデザインの分野で活躍されることになります。人工知能（AI）ではカバーできない感性・知性を磨き続け、成長されることを期待します。そして、「美をつくる」ことにより感動を与え、いのち輝く未来社会の発展・持続に貢献してください。

何年後かに、この作品集を開くことがあれば、その時にはご自身の成長を知り、学友の顔を懐かしく思い起こすでしょう。

最後に、卒業にいたるまで各自の個性を尊重してご指導いただいた先生方にお礼を申し上げると共に、卒業後も引き続き良き絆を保たれることを願ってご挨拶といたします。

畿央大学　学長
冬木 正彦

Contents

卒業制作

8	学長賞	上田 琴乃	Show must go on -Hall ark-
12	優秀賞	櫻井 香月	商店街で一息 ～時間の流れを忘れて過ごす～
14	優秀賞	三歩 莉奈 西岡 あさひ	乳がん術後女性のQOL向上のための入浴着の制作
16	優秀賞	松浦 直香	蘇る母の嫁入り布団～混紡率を楽しんで～
18		荒木 完	Chasen
19		齋宮 ひなの	オーバルチェア
20		稲井 葉澄	都市緑化住宅
21		岡田 由希	CIRCUS －京橋中央商店街英語学習施設－
22		奥村 綾	スマイリースパイス
23		小西 里久	居酒屋深登吏ビフォーアフター　ボトルキープ棚
24		陣田 真衣	おうちのおうち
25		谷村 菜緒	組紐 Stool&Table
26		辻野 皓	光るモニュメント「椅子と机」
27		橋本 菜緒	コミュニティキッチン -新京橋商店街-
28		大上 晴輝	Passive design housing
29		土居 由佳	心に刻むゲート ～JR松山駅の建て替え～
30		平井 伽奈	集う安らぎの居場所 ～古民家福祉活用再生案～
31		牧田 一志	旧堺灯台へのプロムナード
32		宗定 生弥子	屋外型水族園
33		岩城 柚葉	Seaside cosmo1k346 Protect with hydrophilic design
34		海本 有希	吉野っ子の世界
35		勝井 佑奏	榎倉香邨美術館
36		木原 楓	大阪駅南口広場 －都の庭－
37		福嶋 佳奈子	琵琶湖鴨川彫刻美術館
38		福嶋 南帆	隣の沼は青く見える
39		藤原 朋香	60歳からのデイケアセンター
40		堀 祐実	懐乱 ～JR西九条駅高架下セルフビルド屋台村～
41		饗庭 美咲	祈り ～湖と自分～
42		阿部 きらり	何もしない時間
43		石井 彩花	木漏れ日と木影のチャペル
44		猪野 紗也華	－つながる－
45		岡田 祐哉	海とともに ～更なる魅力的な町に～
46		嶋﨑 勇之介	こどもの国
47		辻 沙希	大阪狭山みらい図書館 ～自分の居場所を見つけよう～

48	西本 和人	公園の利用改善計画
49	早川 京	海に憩う
50	松下 茉由	心に残る木造校舎
51	山本 美乃里	自分を見つける場 図書館×生涯学習
52	浅田 明香	黒豆の着物 ～丹後の伝統技法を用いて～
53	太田 琴音	春告着物 －ヤブツバキを織る－
54	北原 亨	地域と共にある家庭科授業～長野県の養蚕を組み込んで～
55	森田 圭亮	綿からジャケットへ ～京の水藍グラデーション～

卒業論文

58	優秀論文賞	栗原 大地	郊外の一戸建て住宅地における表出に関する研究
59		鵜野 銀次朗 小野 太暉	自粛期間における大学生の生活や意識の変化 ～換気行為に着目して～
60		巽 健一 山下 創平	大学生の睡眠の実態と改善方法の検討
61		寺田 希歩 森田 百香	色と音の組み合わせが温冷感や印象評価に与える影響 －呈示条件の違いに着目して－
62		浅海 勝彦	コロナ渦における未就学児の子育て世帯の過ごし方について
63		大目 潤	持続可能な地域産業を目指して ～広陵町靴下産業を事例に～
64		海江田 和輝	コロナ渦における多世代交流拠点づくりの活動報告 －大和高田市きらきら☆ステーションを事例として－
65		柏木 遼介	ベビーカー利用者の目線に立ったバリアフリーの在り方 －近鉄大阪難波駅周辺を事例として－
66		久保 更紗	「観光まちづくり」と新型コロナウイルス感染症流行による 観光産業への現状把握 －奈良市中心市街地を例に－
67		森嶋 宥稀	学童保育のコロナ渦での現状と課題 －奈良市北葛城郡河合町を事例として－
68		新 隆太	ユニフォームに対する色彩のイメージ評価 －サッカーを例として－
69		北村 航太	フィジーカーにおける審美的な肌の色に関する研究 －フィジーカーと一般人を比較して－
70		楠 知也	自動車における色と形状の適合性に関する研究
71		釣本 真央	高齢者施設のホームページからのイメージ評価 －個室を中心として－
72		西川 季輝	インターネットショッピングにおける商品の背景色に関する研究 －ファストファッションの公式ホームページを例として－
73		山本 優雅	種別名から受ける大学名のイメージカラーに関する研究
74	制作風景／講評会風景		
78	展示会風景／ゼミ写真		
82	講評		

卒業制作
Works

CHEN

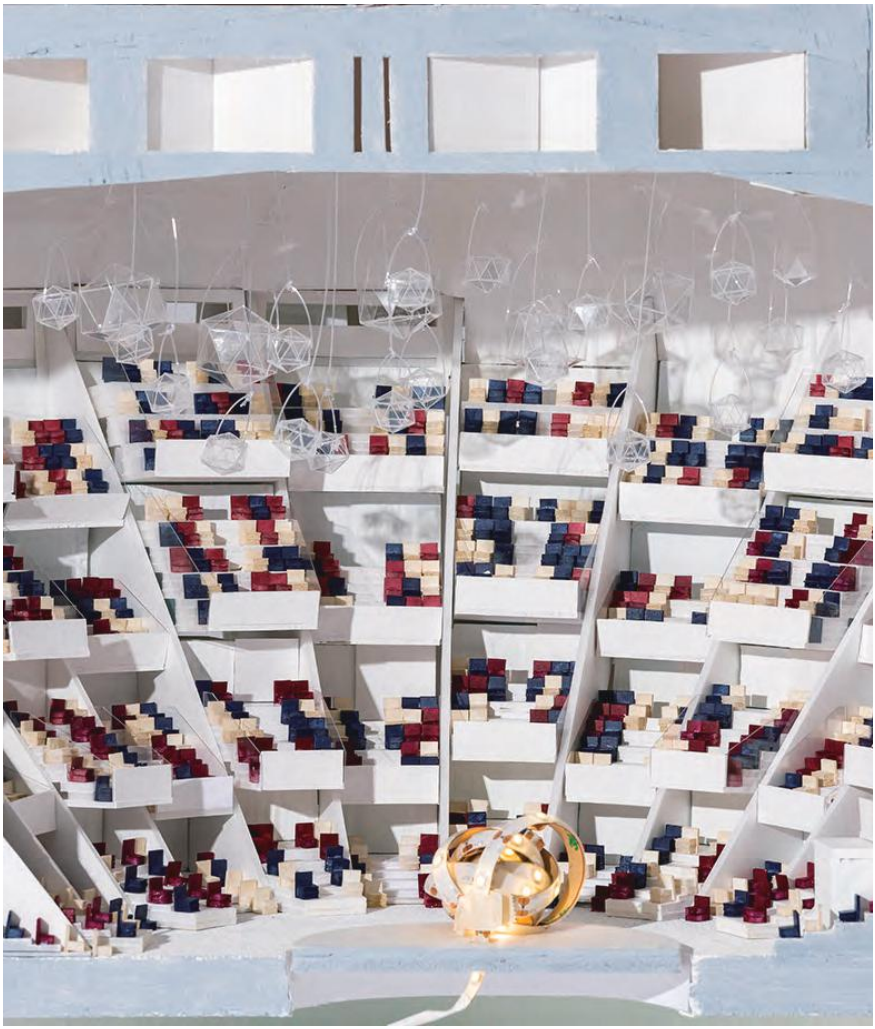
KATOU

MIIDA

FUJII

NISHIYAMA

MURATA



【学長賞】

Show must go on －Hall ark－

上田 琴乃
Kotono Ueda

藤井ゼミ

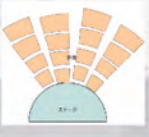
どんな時でもショーを続ける
2020年、突如現れた感染症によって多くの芸術が被害を受けた。
このような状況下でも舞台芸術を楽しむための新しい建築空間、かつ、感染症が流行している時でも舞台芸術を守ることができる空間を提案する。

B2
B1
1
2
3
4
5
6
M7
7
8

感染対策

1)小集団(booth , cubicle , cell)

booth …客席を細かく分割

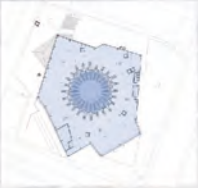


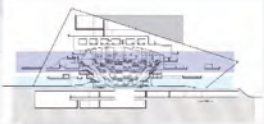
cubicle …ハイリスク者のための個室席

cell…天井から鑑賞できる個室客席

2)分割動線

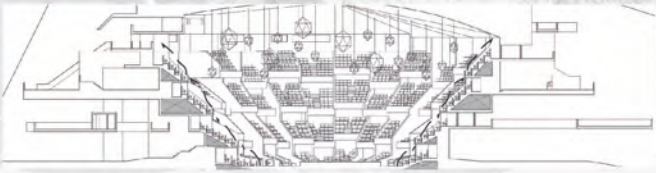
感染状況が悪化しているときは建物内での縦の動線を完全に分ける





3)局所空調

boothごとにSA口RA口を持ち、空気を閉じ込める



受賞のことば

この度は、私の作品を評価していただき、大変うれしく思います。
約1年間の制作は悩み苦しむ時間が大半でしたが、ようやく成果を出すことができ、報われた思いです。これまで経験したことがない世の中になり先が見えない中、今年このテーマで制作をできたことはとても意味があることだと思っています。建築は、パンデミックによって苦しめられている芸術や私たちの心を救うことができると信じて、この計画に取り組んできました。
「建築は希望の光に成り得る」と少しでも思っていただけるきっかけになれば、とても嬉しいです。
最後に、何度もくじけそうになった私を見放さず指導してくださった藤井先生、講評してくださった先生方、一緒に切磋琢磨してきたゼミのみんな、手伝ってくれた後輩たちには感謝してもしきれません。ありがとうございました。

【優秀賞】

商店街で一息 ～時間の流れを忘れて過ごす～

櫻井 香月
Kaduki Sakurai

三井田ゼミ

五條のかつて栄えた商店街は誰も見向きもしなくなってしまった。そんな商店街を何とかしたい。
私の思う五條らしさとは何なのか。町の雰囲気や町並みの美しさ、田舎に流れるゆっくりとした時間だ。
買い物だけではなくわざわざ訪れたくなる場所へ。

【優秀賞】

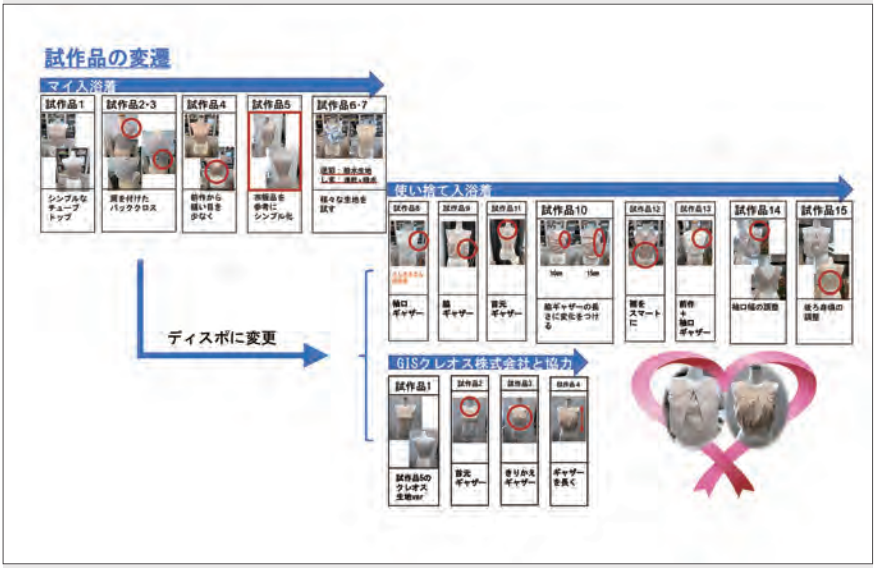
乳がん術後女性のQOL 向上のための入浴着の制作

三歩 莉奈 Rina Sanbu　西岡 あさひ Asahi Nishioka　村田ゼミ

乳がん患者様や入浴施設に対して「入浴着に関するアンケート調査」を行い、
その認知度や入浴着の性能の課題が浮き彫りになった。
これらの課題を解決するため、誰もが簡単に手に取れて、
着心地にも考慮した使い捨て入浴着の制作に着手した。

身近な病気だから正しく知りたい
ンクリボンと乳がん
まなびBOOK
福田 護
認定NPO法人 乳房ケア
ピンクリボン
アドバイザー
認定試験
公式テキスト
第9回ピンクリボンアドバイザー認定試験
試験結果通知書

入浴着アンケート調査
ブライトアイズ


試作品の変遷
マイ入浴着
試作品1
シンプルなチューブトップ
試作品2・3
肩を付けたバッククロス
試作品4
前作から縫い目を少なく
試作品5
市販品を参考にシンプル化
試作品6・7
様々な生地を試す
ディスポに変更
使い捨て入浴着
試作品8
袖口ギャザー
試作品9
脇ギャザー
試作品11
首元ギャザー
試作品10
脇ギャザーの長さに変化をつける
試作品12
肩をスマートに
試作品13
前作＋袖口ギャザー
試作品14
袖口幅の調整
試作品15
使う身体の調整
GISクレオス株式会社と協力
試作品1
試作品のクレオス生地ver
試作品2
首元ギャザー
試作品3
きりかえギャザー
試作品4
ギャザーを長く

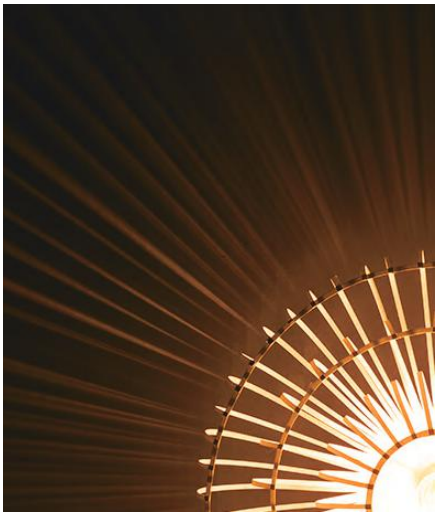
Q.入浴着があれば気軽に公衆浴場に入ることが出来ると思うか？（患者様）

【優秀賞】

蘇る母の嫁入り布団 ～混紡率を楽しんで～

松浦 直香
Naoka Matsuura
村田ゼミ

母が両親から貰ったが、使わずに眠っていた嫁入り布団。
中綿が綿とポリエステルの混紡素材であったことを生かし、
混紡率による染まり方や風合いの違いを楽しんだ作品。
周りの生地も最大限に使用し、新しい形に蘇らせた。



Chasen

荒木 完
Kan Araki

加藤ゼミ

茶道で使われる茶器の一つ、「茶筅」をイメージしたペンダントライトとブラケットライト。
実際の茶筅の作り方を参考にし、それを紙で表現することにした。
茶筅の形状が独特の陰影を作り出す。

オーバルチェア

齋宮 ひなの
Hinano Itsuki

加藤ゼミ

オーバルの形が印象的なチェアをデザインしました。
座面から広がる伸縮性のある紐が優しく包み込んでくれます。
ほっと一息つけるような、リラックスできる形になっています。

都市緑化住宅

稲井 葉澄
Hasumi Inai

加藤ゼミ

都会でも緑に囲まれる、狭い土地でももっと自由に使う、
そして内と外の繋がりがあるおうち。
都会暮らしのイメージや、都会に建つ家のイメージを変える設計に挑戦。

CIRCUS –京橋中央商店街英語学習施設–

岡田 由希
Yuki Okada

加藤ゼミ

明るく賑わう「サーカス」をコンセプトにした、
商店街のイベント空間と、気軽に立ち寄れる英語学習施設。
毎日幅広い年齢層の人々が通る京橋商店街のこの空間に、今以上に人が集まり、
そして今後益々必要となる英語を身近に感じてもらうことで、
商店街の活性化と英語に対する関心の向上を目指す。

スマイリースパイス

奥村 綾
Aya Okumura
加藤ゼミ

外食よりも、家族とほっとする笑顔の食卓を。
オーブン陶芸のぬくもりと個性豊かな家族の表情に心温まる。
それが我が家にもたらすのはスパイスと、スマイルです。

居酒屋深登吏ビフォーアフター　ボトルキープ棚

小西 里久
Riku Konishi

加藤ゼミ

棚・ポップ掛けの両方、店内の木のぬくもりを感じる暖色系の雰囲気に合うようにし、
ポップ掛けはポップの取り外しがより簡単にでき見やすくし、棚は識別性・安全性の向上を考えました。

おうちのおうち

陣田 真衣
Mai Jinda
加藤ゼミ

ネジや釘を用いずに組み立てることができる仮設のパーテーションです。
家の中に小さな空間、一人だけのスペース、作業に集中できる空間を作れるような作品を作りました。

組紐 Stool＆Table

谷村 菜緒
Nao Tanimura

加藤ゼミ

組紐を組む道具丸台、そして椅子、飾り台といったインテリアとして使用できる。
大きいほうを使えば椅子に座って、または立ったまま組め、
小さいほうを使えば従来通り正座で組める。
使わないときはスタッキングができ収納可能。

光るモニュメント「椅子と机」

辻野 皓
Akira Tsujino
加藤ゼミ

映画館の休憩スペースや美術館の受付などブースで椅子と机として使える照明器具です。
足元だけを照らし座った人や机の上に置いているものの存在感をより膨らませる作品です。
椅子と机同じディティールで製作し二つで一つの作品です。

コミュニティキッチン –新京橋商店街–

橋本 菜緒
Nao Hashimoto
加藤ゼミ

タイトルにあるコミュニティキッチンとは、皆で料理を共にしながら仲間を作り、交流を深めていくコミュニティ形態のことです。2階テナントの有効活用としてコミュニティキッチン、それに繋がるバルコニーと歩道橋を設計。空中ステージが商店街入り口に賑わいを与えてくれます。

Passive design housing

大上 晴輝
Haruki Ogami

陳ゼミ

住宅に用いられるエネルギーの削減のため、パッシブデザインの手法について研究した。
堺市における太陽の高度と風向の環境条件を踏まえ、風の流れ、居室に入る光、環境に合わせた集合住宅を計画した。

心に刻むゲート ～JR 松山駅の建て替え～

土居 由佳
Yuka Doi

陳ゼミ

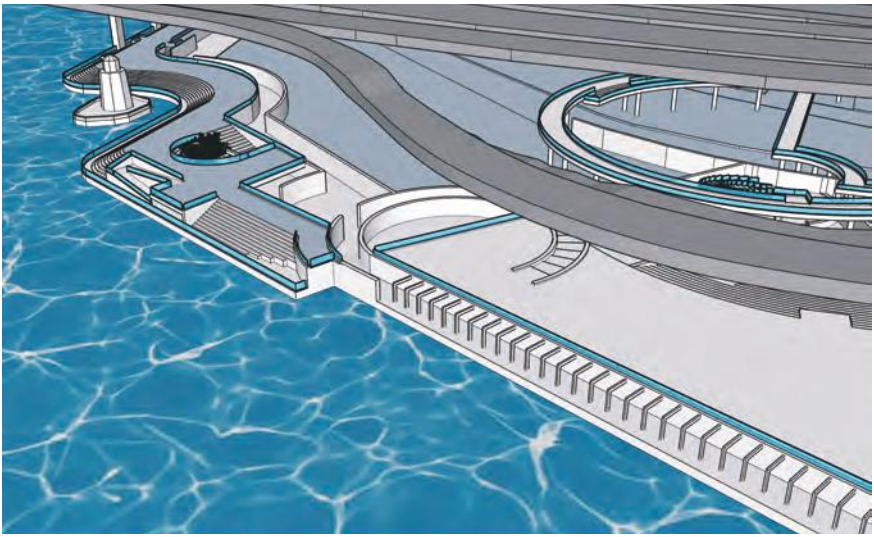
愛媛県JR松山駅の建て替えを計画した。2階ホームの上に橋を架け、3階部分からもホームを見下ろせるようにした。滞在時間や駅を利用する場面を増やし、再会・別れの瞬間が感動的なシーンとなるよう計画した。

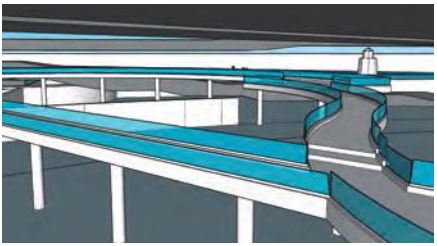
集う安らぎの居場所 ～古民家福祉活用再生案～

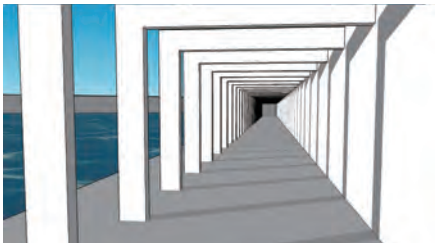
平井 伽奈
Kana Hirai

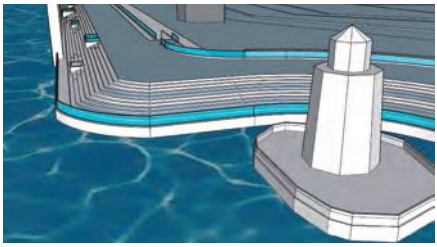
陳ゼミ

「認知症」を知らないから偏見が生まれてしまう。では、知る機会を提供することで今までより身近な存在になる。今回の提案では「認知症への理解を深める」と共に「健康への関心も高める」ことでこの古民家が『地域健康づくりの拠点』へと再生する計画。









旧堺灯台へのプロムナード

牧田 一志
Kazushi Makita

陳ゼミ

現存日本最古の木造洋式灯台の一つである国指定史跡の旧堺灯台のすぐ横を阪神高速４号湾岸線通っており、歴史のある旧堺港と高速道路とが共存している点に、堺の過去と現在が象徴されている。そこでかつて玄関口として栄えた港と現在の散策の水辺空間としての港を両立する新たな旧堺灯台への散歩道を計画した。

屋外型水族園

宗定 生弥子
Fumiko Munesada

陳ゼミ

けいはんな記念公園における既存の観月橋を活用しながら、感染対策もできる半屋外型の水族園を計画した。来客は半屋外空間を散策しながら、そこで水槽を通して公園の日本庭園も見られる。静かにゆっくり滞在空間やアクティブな学びの空間など、4つのテーマにそって様々な年齢層の方が楽しめるような水族園を目指した。

Seaside cosmo1k346 Protect with hydrophilic design

岩城 柚葉
Yuzuha Iwaki

藤井ゼミ

親水デザインによって守られる都市
近年、深刻化する水害に対して堤防に依存することなくしなやかな強さ、回復力を持った
防災に強いだけでなくより快適に過ごせる水と共に生きるためのウォーターフロント計画を提案。

吉野っ子の世界

海本 有希
Yuki Kaimoto

藤井ゼミ

吉野町に住む子供達のための小学校。吉野っ子の世界ですくすく育ってほしい。吉野に触れあってほしい。
家族とはまた違う子供たちの大事な居場所になるようにという思いで設計した小学校。

榎倉香邨美術館

勝井 佑奏
Yukana Katsui

藤井ゼミ

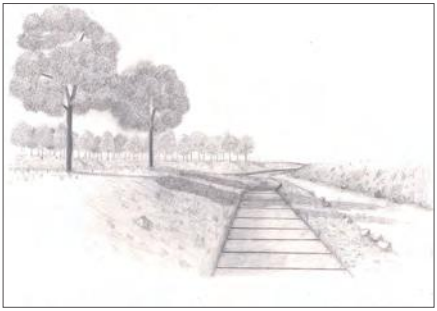
かな文字の作品を書いている書家（榎倉香邨）の作品を飾る美術館。
かな文字は余計なものがなくさっぱりしているのが魅力的である。
書には文字の中に濃い部分や薄い部分がある。それを展示室の部分、廊下で表した。

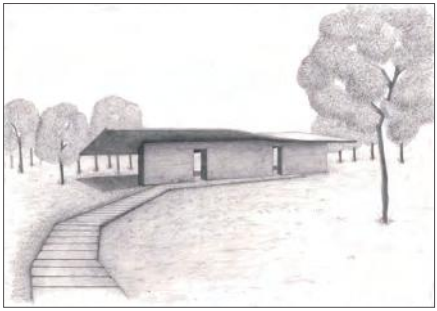
大阪駅南口広場 －都の庭－

木原 楓
Kaede Kihara

藤井ゼミ

梅田の地下街や大阪駅より北側の地上には広場が多数あるが南側にはない。
そこで大阪駅南側に閉鎖的な地下街やビル群とは対蹠的な自然あふれる広場を設計する。
コンセプトを庭とし、クロード・モネの庭のような愛される庭をつくる。





琵琶湖鴨川彫刻美術館

福嶋 佳奈子
Kanako Fukushima

藤井ゼミ

湖畔には森が広がっている。南西には蓬莱山、北には箱館山を望む。
西には鴨川が流れ、南と東には琵琶湖が広がる。そこに彫刻美術館を提案。
自然の中を歩き、作品や景色が創りだす物語を楽しむ。

隣の沼は青く見える

福嶋 南帆
Naho Fukushima

藤井ゼミ

「オタク」という概念が生まれてはや20年。
今やオタクは日本の経済、カルチャーまでもを担う大きな存在となった。
オタクたちの象徴となり、そして「オタク」と「オタク」、
「オタク」と「一般人」をつなぐゲートウェイを計画した。

60歳からのデイケアセンター

藤原 朋香
Tomoka Fujiwara

藤井ゼミ

デイケアセンター、それは歳を取り、様々な不具合が生じてから利用し始める場所。
しかし、利用者本人にとっては、まだ行きたくないと思ってしまう場所。
元気なうちからの遊び場として、慣れ親しんだところで受けるケアなら、気持ちもきっと上向きになる。

懐乱 ～JR 西九条駅高架下セルフビルド屋台村～

堀 祐実
Yumi Hori

藤井ゼミ

店主が思い思いのお店を自らの手でつくり、手軽に出店できる場所をつくる計画です。
昔ながらの雰囲気が残る西九条らしさを凝縮した雑多な空間、何度でも来たくなる新鮮さ、
なのにどこか懐かしさを感じる場所を目指しました。

祈り～湖と自分～

響庭 美咲
Misaki Aiba

三井田ゼミ

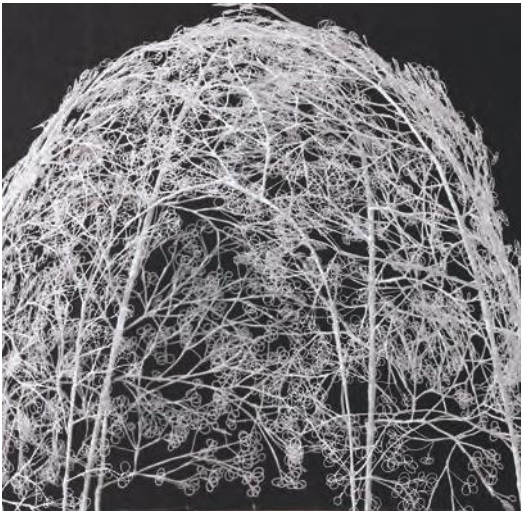
安藤忠雄さんの教会が好きで、卒業制作として教会を設計しました。
地元・滋賀県の良さを訪れた人に伝えたいと思い、琵琶湖岸を計画地にしました。
湖を眺めながら祈りに集中できる空間です。

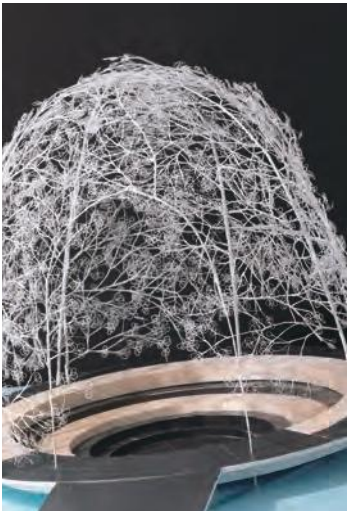
何もしない時間

阿部 きらり
Kirari Abe

三井田ゼミ

祖父母が住んでいる山口県萩市で１週間過ごすことで、ただボーっとする時間が、自分を見つめなおす時間となり、有意義な時間になった。このことを多くの人に体験してもらいたいと思い、何もしない時間をコンセプトに旅館を制作した。





木漏れ日と木影のチャペル

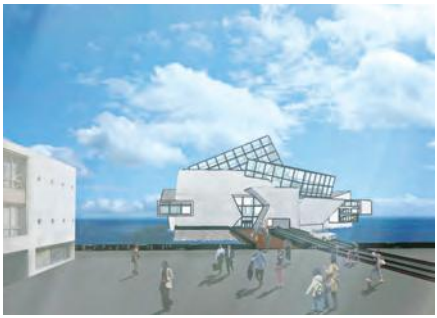
石井 彩花
Ayaka Ishii
三井田ゼミ

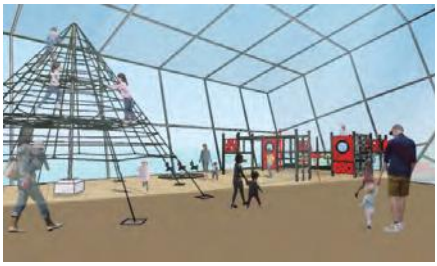
「無垢の愛、幸福、感謝」の花言葉を持つカスミソウをモチーフに、何層にも重なり合い形成されたクーポラ。
クーポラの隙間から差し込む光は新郎新婦を照らし、壁にはクーポラと２人の影が落ちる。
木漏れ日と木陰の作り出す神秘的な空間で一生に一度の結婚式を。

–つながる–

猪野 紗也華
Sayaka ino
三井田ゼミ

学生が一日の大半の時間を過ごす学校で、より豊かに学べる環境とは…
教室以外のどこでも人と人がかかわることができる仕掛け。それは先輩・後輩、先生・生徒、それぞれの関係を超えて関わることができる。それが「―つながる―」学校。





海とともに ～更なる魅力的な町に～

岡田 祐哉
Yuya Okada
三井田ゼミ

呉市は、魅力的な町であるが滞在時間が短いことや、昼食を取る場所が少ない。そこで、戦艦大和や海上自衛隊で知られている呉市の海を活かした、ショッピングセンターを計画することにより、多種多様な人が集まる空間を作る。

こどもの国

嶋﨑 勇之介
Yunosuke Shimazaki

三井田ゼミ

たくさんの木の生えた森エリア、走り回る回廊、隠れ家のようないくつもの建物、たくさんの遊び場を設けることで、様々な遊び場をどのように使うか、自分たちで考え遊ぶことができる保育園の設計をした。

大阪狭山みらい図書館 ～自分の居場所を見つけよう～

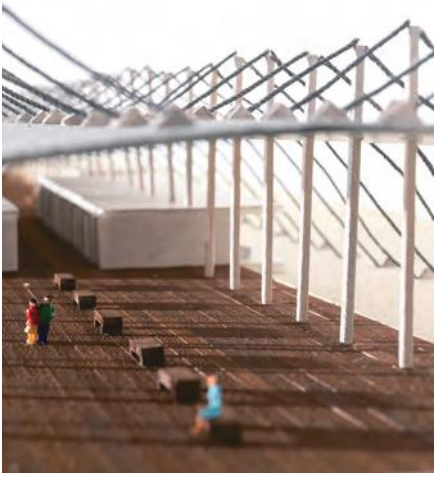
辻 沙希
Saki Tsuji
三井田ゼミ

知識に触れる場だけでなく、自分の居場所が見つかる場、人と人が出会う場、
普段とは違う時間を過ごせる場、など。
いろんな空間、時間、出会い、発見を大切にしたい、
そんな思いから生まれた何度でも訪れたくなる図書館の誕生です。

公園の利用改善計画

西本 和人
Kazuhito Nishimoto
三井田ゼミ

近年、利用者の少ない公園が増えているが、原因は禁止事項が多いからではないかと考えた。
例えばボール遊びなどである。そこで、小体育館を設けることで遊び方の幅が広がり、公園の利用の活性化を促した。



海に憩う

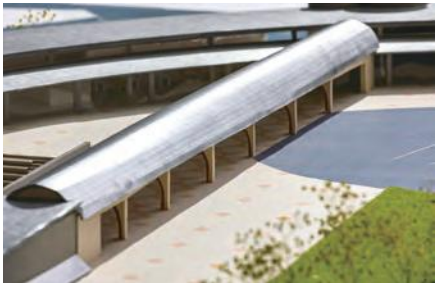
早川 京
Miyako Hayakawa
三井田ゼミ

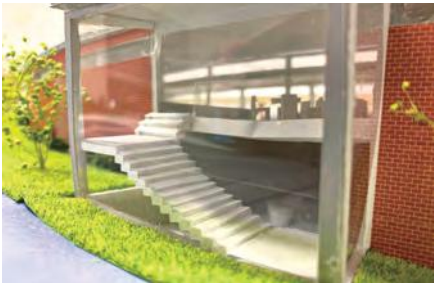
心地よい風が吹きゆったりとした時間が流れる海は、人々のオアシスである。
そんな海を舞台に「食べる、くつろぐ、買い物をする」という機能を持ち、多くの人が楽しめる“海の駅”を提案する。大きな屋根の下で、癒しの時間を…

心に残る木造校舎

松下 茉由
Mayu Matsushita
三井田ゼミ

卒業生にとって誇れる、記憶に強く残るような小学校を設計。重厚感のある外観、雨天でも伸び伸び遊ぶことが出来る中庭、町のシンボルになる時計台、開放感のある図書館が特に改善した場所である。





自分を見つける場　図書館×生涯学習

山本 美乃里
Minori Yamamoto
三井田ゼミ

本にふれ、知識を得る、実践し身につける、そして伝える。
こうした学びの中で「自分の生き方」を見つけてほしいという想いで設計しました。
「図書館 × 生涯学習センター」で学びをより身近で気軽に感じられるようにと考えました。

黒豆の着物 ～丹後の伝統技法を用いて～

浅田 明香
Sayaka Asada

村田ゼミ

繭を煮たものを１つ１つ手作業で紡いでいく「ずり出し」
また染料は「黒大豆」使用し、６色を表現
いにしえの技法と呼ばれるずり出し糸の繊細さ風合いの再現にこだわった。

春告着物 –ヤブツバキを織る–

太田 琴音
Kotone Ota

村田ゼミ

祖父の庭に沢山植えられていた「椿」。万葉の世界にも登場し、古くから人々の暮らしに密接に寄り添ってきた椿の枝葉を用いて染色。ピンク色を得るのに試行錯誤を重ね、
1枚の布に椿の美しい色彩を表現、着物を制作した。

地域と共にある家庭科授業 ～長野県の養蚕を組み込んで～

北原 亨
Toru Kitahara

村田ゼミ

来年度から長野県の中学校家庭科教員として働くことになりました。
長野県でかつて盛んに行われていた養蚕を家庭科の授業に取り入れるために、
身近なものだけで簡単に作れる道具を製作しました。

綿からジャケットへ ～京の水藍グラデーション～

森田 圭亮
Keisuke Morita

村田ゼミ

私が生まれ育った広陵町で江戸時代から栽培されてきた「綿」を素材にして、
ジャパンブルーと呼ばれる「藍染」をすることで、優しさのある綿100％で、
鮮やかな藍染のグラデーションのジャケットを制作しました。

卒業論文
Theses

CHEN

LEE

SHIMIZU

AZUMA

NISHIYAMA

【優秀論文賞】

郊外の一戸建て住宅地における表出に関する研究

栗原 大地
Daichi Kurihara

陳ゼミ

〈目的〉

近年の住宅では、閉鎖的に建てられる傾向があり、近所の交流が少なくなる可能性がある。一方、住宅地の中では、住民たちが自宅周辺に設置した鉢植えや装飾という表出(注1)も見られる。表出があれば、近隣住人の交流のきっかけになる可能性がある(図1)。そこで、本研究は一戸建て住宅における表出の分布実態を把握して、門周りの類型と表出の数量(規模)との関係を明らかにすることを目的とする。

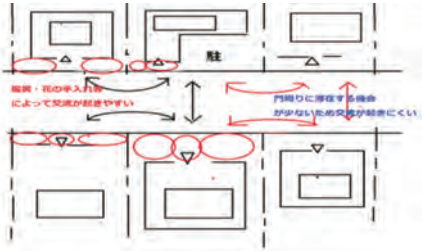


図1 表出によるコミュニティ形成の可能性

〈方法〉

関西圏にあるニュータウンのK1丁目～K4丁目及びニュータウンに隣接している旧集落を研究対象地とした。街区の構成に共通点のあるK1丁目とK4丁目をニュータウン開放タイプのⅠ地区に、K2丁目とK3丁目をニュータウン閉鎖タイプのⅡ地区に、さらに旧集落をⅢ地区とした。グーグルマップのストリートビュー(注2)を用い、研究対象地における一戸建て住宅の門周りの表出の観察調査を行う。塀の開放性(因子1)と門の位置(因子2)によって、一戸建て住宅の門周りの類型を6類型に分類した。門の周りにおける表出の有無や表出の規模を集計して、各地区を比較しながら、門周りの類型によって表出量を考察する。

〈まとめ〉

本研究では、Ⅰ地区の320事例、Ⅱ地区の366事例、Ⅲ地区の58事例で、合計744事例の観察調査を行った。

表出量と塀の開放性(因子1)の関係性では、全体的に、開放性が高いほど、表出量が大きかったが、地区ごとに見ると、Ⅰ地区のみ、開放性が高いほうの表出量が必ず高いとは言えなかった。

表出量と門の位置(因子2)の関係性では、全体的に、セットバックのあるほうの表出量が大きかったが、地区ごとに見ると、Ⅰ地区ではセットバックがある方の表出量が必ず高いとは言えなかった。

塀の開放性(因子1)と門の位置(因子2)が表出量に対する影響の差について、Ⅰ地区とⅢ地区では、塀の開放性(因子1)のほうの影響が大きかったが、Ⅱ地区では門の位置(因子2)のほうの影響が大きい結果もあった。

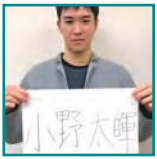
一戸建て住宅における表出量は、塀の開放性や門の位置と関連しており、街区の構成によって、影響の差があることがわかった。今後、門周りの表出が増えることで、住民は門周りで滞在する時間が増えることによって、近隣同士の交流も増えるとともに、活気のある街になることが期待される。

注

1) 外から見て、家の外観の見栄えを良く見せるようにすることを目的とした門周りの花壇・植木鉢・鉢植え、装飾品等を対象とする。
2) グーグルマップ(ストリートビュー)、撮影日:2018年10月、最終閲覧日:2021年1月7日

参考文献

1) 鈴木成文:「いえ」と「まち」, 鹿島出版会, pp.41-51, 1984



自粛期間における大学生の生活や意識の変化 ～換気行為に着目して～

鵜野 銀次朗 Ginjiro Uno　小野 太暉 Taiki Ono　東ゼミ

〈目的〉

世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大しているが、危機感の感じ方には個人差があり、日本ではいち早く３密を避ける行動を促して換気を励行したため、防疫行動としての換気に対する意識は高いのではないかと考えた。そこで本研究では、自粛生活を余儀なくされている大学生の日常生活の変化を調査するとともに、換気に対する意識と実際の換気行動の実態に着目した環境実測を行い、その関連を検証することを目的とする。

〈生活実態調査〉

方法：Google Formsを使用

調査内容：住宅の換気設備、換気頻度と目的、コロナの影響（危機感、在宅時間、防疫行動、外出頻度の変化など）

調査期間：2020年9月-10月

結果：回答が得られた大学生101名のうち９割以上が危機感を持っていた。感染拡大後には防疫行動全般が増加し、特に衛生（手洗い・うがい・消毒）は有意に増加した。在宅時間の延長、外出頻度の減少にも有意差がみられた。秋の換気意識には感染拡大による変化はなかった。冬は外気温等の影響により換気頻度が低い傾向にあるが、今年の換気意識は高かった（図1）。換気する理由は、新鮮空気の取入れやにおいの除去が多いが、防疫行動という回答も３割以上から得られた。

〈換気実態調査〉

大学生の日常の換気実態を把握し、換気意識の変化が換気行動と室内空気質の改善にどの程度寄与するか、実測調査を通して検討する。

測定項目：室内温湿度・二酸化炭素濃度（温湿度・CO_2データロガー）

被験者：大学生７名（自室にて測定）

調査期間：2020年10月-12月

（秋・冬とも通常通りの生活を7日間、換気を意識した生活を7日間の計14日間）

結果：通常の生活における在室時のCO_2平均濃度は、秋･冬ともに約1200ppm、換気を意識した場合には、秋が約1000ppm、冬は約1100ppmであった。秋の換気意識条件では窓解放時間、開放面積･箇所が増加し、濃度が低減する事例が多いが（図２）、寒い冬では意識と行動が必ずしも一致していない事例や換気行動が濃度低減につながらない事例が散見された。そこで、２室で追加実験を行い、冬に実施可能な換気方法を検討した結果、空気の入口と出口を確保し（窓開幅5cm程度で2か所または、室内扉開放＋窓開幅5cm程度）、1時間に５分程度の換気を行えば、温度低下による寒さを抑制しつつ、1000ppm未満に維持することができた。

謝辞：本研究にご協力頂いた皆様に感謝致します。

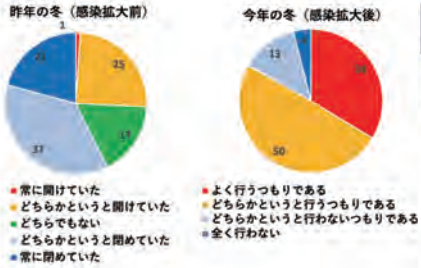


図1　冬期の窓開け換気の意識（拡大前後）

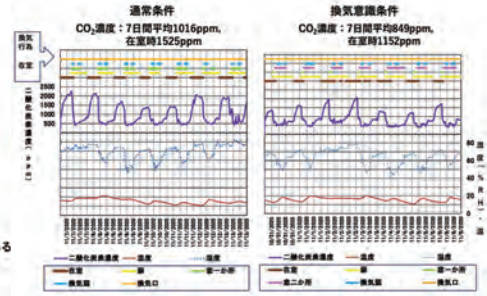


図2　秋期環境測定結果の例（通常：左図　換気意識：右図）

大学生の睡眠の実態と改善方法の検討

巽 健一 Kenichi Tatsumi　山下 創平 Sohei Yamashita　東ゼミ

〈目的〉

時間の使い方の自由度が比較的高い大学生は、新型コロナウイルス感染拡大に伴うリモート授業の増加により生活リズムが一層不規則になっていると予測される。そこで本研究では、生活実態調査により感染拡大前後の大学生の睡眠に関する課題を把握するとともに、睡眠の質の改善に向けた対策の効果を検証する目的で睡眠実態調査を行う。

〈方法〉

方法：Google Formsを使用
調査内容：寝室環境、睡眠の実態、睡眠満足度、運動習慣など
調査期間：2020年10月
結果：大学生60名より回答を得た。新型コロナウイルス感染拡大前後で睡眠に変化のあった人が半数を超えた。感染拡大後には睡眠時間が延長する傾向があり（図1）、睡眠に満足している人は約7割であった。しかし、昼間に眠気を感じる人は8割以上、寝つきや目覚めが悪い人が約半数を占めるなどの課題があり、特に寝付きが悪くなった人に睡眠満足度が低下する傾向がみられた。よって、睡眠時間の延長は主観的な睡眠満足度の向上に繋がる一方で、寝つきや目覚めの状況が昼間の眠気や睡眠の質に影響を及ぼす可能性が示唆された。

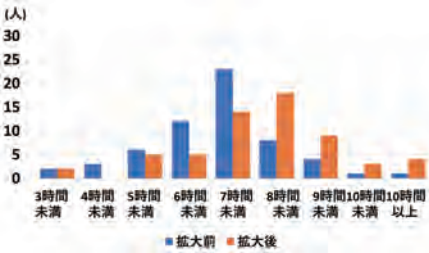


図1　感染拡大前後の睡眠時間の比較

〈まとめ〉

睡眠の寝つきと目覚めに着目し、通常睡眠条件と介入条件（寝つき時にヒーリング音楽を聴く、目覚め時に光で起きる目覚まし時計使用）の睡眠を比較する。
測定項目：寝室環境（温湿度・照度データロガー）、活動量（多機能万歩計）、起床時睡眠感（OSA睡眠調査票MA版）
被験者：大学生8名（男性6名・女性2名）
調査期間：2020年10月下旬～11月中旬
（各条件とも連続した3日間の計6日間）
結果：各条件ともに寝室の温熱環境は概ね良好であったが、被験者の日中の活動量の目安となる歩数の平均は4800歩程度と少なく、コロナ禍による活動の減少は睡眠に影響を及ぼすと推察された。調査時の平均睡眠時間は各条件ともに約8時間であった。

OSA睡眠調査結果の平均値をみると、介入条件で良好な結果となった（図2）。5つの評価項目のうち、特に因子Ⅰ（起床時眠気）、因子Ⅱ（入眠と睡眠維持）、因子Ⅳ（疲労回復）が改善し、因子Ⅱについては条件間で有意差が確認された。因子Ⅱは因子Ⅲ以外との相関がみられたことから、ヒーリング音楽を聴くことは入眠を促し、睡眠の質を改善する可能性があると考えられた。目覚めに関しては改善する傾向があるものの個人差があり、効果の検証には今後の更なるデータの集積が望まれる。

引用論文：山本由華吏, 田中秀樹, 高瀬美紀, 山崎勝男, 阿住一雄, 白川修一郎: 中高年・高齢者を対象としたOSA睡眠感調査票（MA版）の開発と標準化. 脳と精神の医学 10: 401-409, 1999
謝辞：ご協力頂いた被験者の皆さまに感謝いたします。

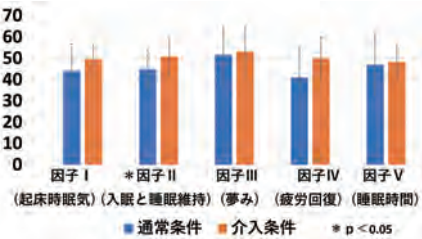


図2　OSA睡眠調査得点の睡眠条件間の比較

色と音の組み合わせが温冷感や印象評価に与える影響 ー呈示条件の違いに着目してー

寺田 希歩 Kiho Terada　森田 百香 Momoka Morita　東ゼミ

〈目的〉

温熱的な不快感を他の感覚刺激により改善できれば環境負荷の低減に繋がると考えられる。本研究は、夏期において温熱環境と生理的条件が一定の環境下で視覚と聴覚刺激を組み合わせた被験者実験を行い、温冷感、快適感、印象評価を比較検討する。さらに、試料呈示方法の違いに着目し、主観評価に与える影響を考察する。

〈方法〉

[色]青10B4/10　緑10GY4/6
　赤5R3/10
[音]せせらぎ(54dB) 強風(64dB)
　セミ(70dB) 焚火(50dB)
[呈示条件]3次元(実大), 3次元(模型)
　2次元(パネル呈示)
[主観評価調査項目]温冷感、空間の印象(SD法)、熱的快適感、音的快適感、総合的快適感、各項目7段階評価
[測定項目]環境温湿度(温湿度データロガー)、皮膚温(腕・胸・大腿・下腿:温度データロガー)、音の大きさ(騒音計)
[被験者]大学生7名(男性5名・女性2名)
[実験手順]
実験室環境に順応の後、被験者に色と音の条件呈示をランダムに実施
[実験期間]3次元(実空間):2019年夏期
3次元(模型)・2次元:2020年夏期

〈まとめ〉

[実験室環境と生理的条件]

実験室の温度は約27℃、被験者の平均皮膚温は各条件ともに約33℃で、温熱的に中性とされる環境であった。

[音のイメージに合う色]

被験者に音を聴かせ、3色に白色を加えた4種のパネルを見せてイメージに合うかを10段階で評価した結果、以下の組み合わせとなった。

せせらぎ→青・緑　強風→白・青
セミ→赤・緑　焚火→赤

[主観評価]

寒色の青色は有意に涼しく、暖色の赤色は有意に暖かく評価され、緑色と白色は中立の評価であった。音では、せせらぎと焚火が快適、セミと強風が不快と評価された(表1)。焚火やセミの音を涼しい印象でイメージに合わない青色で聴くと、温冷感は有意に暖かく変化した。夏期実験であったため、せせらぎとそのイメージに合う青色の組み合わせの印象評価が最も高かった。

実空間は色の影響が大きく、模型条件は音の影響を受けやすい傾向があるなど呈示条件の違いにより主観評価に特徴がみられた(表2)。よって、実験結果を実際の空間に応用する際には、各呈示条件の特徴を考慮する必要があるといえる。

謝辞:実験にご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。

表1 色と音の主観評価への影響

色		音	
温冷感に影響		せせらぎ	快適評価
赤	暖かい	焚火	
緑	どちらでもない	セミ	不快評価
青	涼しい	強風	
色と音の組み合わせ			
イメージに合わない組み合わせの時に温冷感が変化		イメージに合う組み合わせの時に空間の印象評価が高い	

表2 呈示条件による特徴

呈示条件による特徴		
実空間		呈示面積の大きさにより色の影響が大き(特に赤色・青色)
模型		眺いて評価するため、他の視覚情報を遮断し、聴覚(音)の影響が大きい
パネル		呈示面積が小さく、周囲の壁との対比の効果もあり、色の影響が小さい(特に赤色)

コロナ渦における未就学児の子育て世帯の過ごし方について

浅海 勝彦
Katsuhiko Asami
清水ゼミ

〈目的〉

子育て世帯に対する課題は、年々多様化し、それに対応し多岐にわたる政策がなされてきた。新型コロナウイルス感染症下における子育て支援策は現在も模索されているが、感染症予防との狭間で苦戦を強いられている。

そこで、本研究では、大和高田市の子育て世帯を対象に、新型コロナウイルス感染症下における生活の実態を把握することで、今後の子育て支援のあり方の示唆を得ることを目的とする。

〈方法〉

下記の要領でアンケート調査を実施した。

調査対象:大和高田市の教育・保育施設を利用する保護者
調査方法:QRコードを読み込み、Googleフォームでアンケートに回答
調査期間:2020年11月末から12月末
(有効回答数　37件)

〈まとめ〉

大和高田市の幼稚園、保育園、こども園は医療従事者など個別に申請した家庭をのぞき、4月22日から5月31日まで原則休園となり、6月1日から再開された。

また、児童館等の地域にあるその他の子育て支援施設は、緊急性の高いものは実施されていたが、コロナ前まで気軽に使えていた施設は閉鎖や利用制限され、その後は段階的に再開されていった。

そのような状況で大和高田市で実施したアンケート調査から、下記の2点について明らかとなった。

• コロナ禍でのストレス

保護者の心的変化について、イライラして怒りっぽくなった(42%)、子供を叱ることが増えていた(42%)、などの回答が多く得られた。

保護者から見た子どもの変化についての質問では、メディアの利用が増えた(70%)、運動不足になった(78%)、などが多くの回答が得られた。またその状態は幼稚園、保育園、こども園が再開されても大きな変化はなく、ストレスを抱えていた状況は続いていた。

• ストレスの解決法

保護者は家事や育児をできるところまでにし、無理をしないようにしたこと(45%)、コロナに対する的確な情報を常に得るように心がけていたこと(40%)との回答が得られた。

子供は、散歩等で運動をさせていたこと(59%)、近所の公園を利用していたこと(54%)、が多く回答が得られた。

一方で児童館等の地域にあるその他の子育て支援施設が解消法となっていたという回答は極端に少なく、それらの施設が段階的に再開されても、保護者自身が利用をひかえていることがわかった。

本調査では、コロナ禍における子育て世帯は、心身のストレスを抱えているものの、施設や他者にたよるのではなく、自助努力により解決しようとする動きが多い事が明らかとなった。これまでのような集いの場所を作り、参加を待つ姿勢の施設は、利用されていないことを鑑みると、集まらない支援策の必要性を示唆していると考える。

持続可能な地域産業を目指して ～広陵町靴下産業を事例に～

大目 潤
Jun Ome
清水ゼミ

〈目的〉

地域産業の振興は、地域で人々が豊かに生活する上で重要な要素の一つである。研究対象地である広陵町の主な産業は靴下産業である。しかし複数の調査から年々衰退傾向の一途を辿っていることが明らかになっている。さらに、コロナ禍により、靴下産業全体が深刻な経営難に陥っているという声が数多く聞かれるようになった。広陵町の靴下産業は、組合等はあるものの、各企業ごとの製造工程がどのような産業構造で成り立っているかについては、共有されておらず、将来（5年後、10年後）への展望も不明確なままである。本研究では、広陵町の靴下産業の現状を明らかにすることで、今後の靴下産業における施策の方向性の示唆を得ることを目的とし、以下の二つについて調査研究を実施する。

①最新版（R2.04.01）の靴下組合名簿を元に、実際に開業している正確な企業数を把握する。

②広陵町の靴下産業が継続していく上での課題を明らかにする。

〈方法〉

広陵町内及び広陵町商工会把握の靴下組合員名簿記載の「靴下製造業の経営者」に対し、下記の要領で調査を実施した。

時期：2020年8～11月
方法：質問項目郵送、電話での聞き取り。
対象：町内の靴下事業者30件／39件
（有効回答率 77％）

〈まとめ〉

●開業している企業数

39社。名簿記載40社のうち1社は廃業していた。残りの39社のうち9社は経営存続が難しいと回答した。

●靴下産業が継続していく上での課題

・承継の課題

経営者の年齢が60代以上の企業は47％と町内の約半数を占めた。事業規模が小さいほど、後継者がいないという回答が多いということが明らかになった。

・内職者への依存と高齢化

内職者の平均年齢は50代が21％、60代が38％、70代が38％、80代が3％と及んでおり、内職者の高齢化が見られた。特に、事業規模の小さい企業において内職者の高齢化が進んでおり、経営者の年齢別の内職者の年代から、経営者の承継ができていたとしても、内職者の継承ができていないことが明らかになった。

・OEM[注1]との関係性

暖冬の影響やコロナ禍など環境の要因もさることながら、OEM率が高いことも計画的な生産を難しくしている。計画的な生産体制の確立の為には、OEM事業を持ちながらSPA[注2]事業を行うことが必要であるとされているが、本調査では、OEM率が高い企業のSPA率の向上意向はみられたものの、OEM率100％の企業のうち71％がSPAの展開意思がないことが明らかになった。

●今後の広陵町

本研究では、企業間の連携がなされていない産業において、各企業の課題は共有されにくく表面化しづらいが、類似する課題をそれぞれが抱え苦悩していることが明らかとなった。今後は靴下製造企業が協力できる仕組みの模索、内職者の在り方の模索や再構築が必要であると考える。

注釈
注1：OEM　製造方法の一種。ファッションブランドなどの依頼主から依頼を受け、靴下製造企業が製造を行う。
注2：SPA　製造方法の一種。企画から製造を全て靴下製造企業が行うもの。靴下製造企業は外注（内職者・下請け事業者）を利用し、下請けへと出すこともある。

コロナ渦における多世代交流拠点づくりの活動報告
― 大和高田市きらきら☆ステーションを事例として―

海江田 和輝
Kazuki Kaieda
清水ゼミ

〈目的〉

シニア世代と子育て世代には社会的な孤立という共通課題が潜在化していると言われている。これらを一挙に解決する手段の一つとして、世代を超えた助け合いの仕組みが求められている。大和高田市にはこうした多世代交流の拠点が少ないため、のちに「きらきら☆ステーション（以下：きらステ）」と呼ばれる交流の拠点が作られた。

本活動は、この交流拠点におけるコロナ禍の多世代のコミュニティ構築を目的とする。きらステ運営という同じ目的を持つ者同士が、世代を超えて気軽に話せる機会をオンライン上に創出すること、感染症終息後のきらステ運営をスムーズに進めていけるようなコミュニティの構築を目指す。

〈方法〉

コロナ禍の状況で対面の活動も含めながらZoomを利用したオンライン会議を主に、きらステ運営者の組織づくりを行なった。

〈まとめ〉

昨年度、「きらステ」の運営に携わる希望者（以下：メンバー）を募ったところ、シニア世代10名、子育て世代2名の合計12名の希望者が集まり、活動を開始した。次から、活動内容を記す。

(1) 対面会議（7/10）

活動に参加したいかの意思確認を取り、今後の運営方法について議論を進めた。

(2) オンライン会議の準備

・個別レクチャー会（8/18～9/10）

Zoomでの会議ができるように、個人のレベルに合わせ、8人と計11回のレクチャーを行った。全員数回のレクチャーで習得した。

・オンラインお茶会（9/11～18）

オンライン会議を行う前に、雑談を交えた「お茶会」を2回開催した。この機会を利用して、各自Zoomの参加の仕方や発言の方法などを試した。

発言がほとんどない人なども見られ、皆が話せるような司会進行が課題であった。

(3) オンライン会議

・名称の決定（9/25）

毎回10名程度のメンバーがZoom会議に参加した。6つの候補から、ひらがなかカタカナか、記号は入れるかなど、全員が納得するまで何度も議論し決定した。YES・NOで回答できる問いかけを心がけたほか、皆が話せるように、一人ずつ意見を言える時間を設けることで、比較的多くの意見がきかれるようになった。

(4) ロゴマークの選択・決定（10/6～11/9）

参加者からのロゴ案を持ち寄り、各自どれがどのような理由で良いと思うのか、議論した。色合いや形など微妙な部分の議論は好みが分かれたが、最終的には皆が納得して決定することができた。好みによるような内容だったが、積極的な意見交換が見られ、スムーズに行えるようになってきた。

(5) 周知動画の提案・作成（10/23～12/18）

活動に賛同したメンバー以外の住民がドローン撮影の協力者として加わった。メンバーの口からも感謝の気持ちや活動へのやる気が上がるなどの声がきかれた。

(6) オンラインイベント開催（10/9～12/25）

メンバーがイベントのテーマを選び、学生が主体となって、折り紙の折り方イベントを企画実施した。企画からイベント開催まで、およそ2ヶ月かけて実施した。

オンライン上での意思疎通は難しいと言われているが、YES・NOで回答出来る簡単なものから議論を始め、徐々に複雑な課題に取り組んだことで、活動が定着していったのではないかと推測される。

謝辞：本活動に携わって下さった市民交流センターの方々を始めとしたスマホ講座の方々、地域のママさん方、さざんかホールの方々など多くの方々に心より感謝申し上げます。

ベビーカー利用者の目線に立ったバリアフリーの在り方
―近鉄大阪難波駅周辺を事例として―

柏木 遼介
Ryosuke Kashiwagi

清水ゼミ

〈目的〉

本研究では、大阪難波駅の改札から地上階までの、ベビーカー利用者の移動の課題と要因を明らかにすることを目的として、下記の2点について研究する。

1．ベビーカー利用者の目線にたった、改札口を出てからの地上までの課題を抽出する。
2．課題が発生する要因を明らかにする。

〈方法〉

それぞれ、下記の要領で実施した。調査範囲は、私がベビーカーを押して、改札を出てから5分以内に地上に出ることができるルートとした。

1．課題抽出

調査方法：指標を作り実際ベビーカーを押して歩いて確かめた
調査期間：2020年5～6月
調査内容：EVの有無・標識の分かりやすさ

2．課題の要因

調査対象：近畿日本鉄道（株）/大阪市役所 / 大阪地下街（株）
調査方法：電話によるヒアリング
メールによるアンケート調査
調査期間：2020年10月～12月

〈まとめ〉

課題と要因について、表1の通り、まとめた。

課題1：改札階から地上まで

大阪難波駅には西改札口と東改札口がある。しかし東改札口の外にはEVがなく、ホームからも改札階からも「東改札口を出た後にEVがない」という明確な標識がなく、分かりにくい。

課題2：西改札口から地上まで

・西改札を出ると、地上階まで上がれるEVはなく、地下1階（以下B1F）で乗り換えなければならない。しかしB1Fで降りると、次に利用する地上に上がるためのEVの案内はない。
・B1Fから地上へ上がるルートは5ルートある。全てなんばウォークを通らなければならないが、なんばウォークではEVの案内が無い。

課題3：地上から地下に降りる

地上から地下へ降りるEVは、案内がほとんどなく見つけにくい。

以上の課題について、関係各所に確認したところ下記の要因が明らかとなった。

要因1　通路を所有する企業間の連携はない

EVと通路の所有は異なる場合が多く、所有が異なれば、標識は設置していないことが明らかとなった。また、近接する通路やEVの所有者間の連携は行われていないことも要因であると考えられる。

要因2　標識を設置するかどうかは企業意識次第

標識を設置するための基準や規則、罰則規定等は設けられておらず、また、設置に対する優遇措置等も取られていない。設置の有無は企業の意識に委ねられていることが明らかとなった。

表1　課題と要因

評価対象	ホーム階	西改札出口	東改札出口	Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート
点字	○	○	×	○	○	○	○	○
対応機	○	○	×	○	○	○	○	○
地下標識	×	○	×	○	○	×	×	×
地上標識	－	－	－	×	○	×	×	×

【課題】バリアフリー対策　○：有り×：無し－：対象外
【要因】緑：近鉄大阪難波の課題 青：管轄の連携の問題
オレンジ：各企業の課題

近畿日本鉄道では、改札内のバリアフリーについては、配慮しているものの、改札を出てからの配慮が見られないことが明らかとなった。

また、大阪の主要市街地である難波駅周辺のEV設置については、最低限の規定はあるものの、十分とは言えず、大半が所有者である民間企業任せである。所有者同士の連携が必要不可欠であるが、所有者が複雑に別れており、連携の取りにくさの要因にもなっていることが明らかとなった。

「観光まちづくり」と新型コロナウイルス感染症流行による観光産業への現状把握 ―奈良市中心市街地を例に―

久保 更紗
Sarasa Kubo
清水ゼミ

〈目的〉

新型コロナウイルス感染症流行によって、かねてから「オーバーツーリズム」の問題が懸念されていた観光地が一変した。しかし、観光産業は歴史的に見ても経済危機や戦災など、状況悪化後の立ち直りの早い産業であったことを踏まえると、次に訪れるやも知れぬ「急速なオーバーツーリズム」が顕著化する前に、対策を取る必要があると考える。そこで、奈良市中心市街地を事例として、コロナ禍における観光産業を取り巻く現状を把握し、今後の「観光まちづくり」の在り方の知見を得ることを目的とする。

〈方法〉

奈良市中心市街地に所在する観光産業従事者へアンケート調査、ヒアリング調査を実施し、地域コミュニティとの関係性や新型コロナウイルス感染症流行による観光産業への影響の実態を把握する。

〈まとめ〉

1.　客層

1-1 感染症流行前

アンケート調査によると、主な来客者は観光客（国内）が87%、観光客（外人）は63%、主婦は60%、高齢者、家族連れが53%と続き、観光客だけでなく、地元からも利用されていた。

1-2 感染症流行下

新型コロナウイルス感染症流行前までは63%であった外国人観光客が11月地点では0%と激減し、高齢者や家族連れ、会社員も10ポイントほどずつ減少した。

2.　観光客の多さの捉え方

2-1. 感染症流行前

ヒアリング調査から、観光客の多さを意識する暇がなかったという回答が大半を占めた。

2-2. 感染症流行下

観光産業従事者90%の回答者は観光客がまちの許容量に対して多いと感じており、観光客の増加に伴うマナーやごみなどの問題を認識していた。

3.　観光まちづくりについて

3-1. 感染症流行前

忙しく過ごす中で、事業者同士や事業者と住民とで、観光まちづくりについて話し合う機会はほとんどなかった。

3-2. 感染症流行下

事業者同士では63%、事業者と住民間では80%の回答者が、観光まちづくりについて話し合う機会はなかったと回答した。時間に余裕ができても、観光まちづくりについて話し合う機会がなかったことがわかった。

3-3. 理想

多くの回答者が、今後は事業者と住民が一緒に話し合うことが望ましいと考えていることが明らかとなった。

4.　今後の課題

観光客が少なくなった今、振り返ると観光客が多すぎたと思っている商店主も少なくなく、観光まちづくりについて、地域住民など地域に関わる全ての人たちで話し合う場が必要であるとしていることが分かった。しかし、時間的余裕が生まれても、話し合う機会が生まれなかったことを加味すると、観光産業従事者だけで議論の場を創出することは困難であると想像できる。地域に関わる全ての人たちで協力し、話し合いの場をつくることから始めることが求められる。

謝辞：本研究のアンケート調査、ヒアリング調査にご協力いただいた奈良市中心市街地の皆様、餅飯殿センター街の皆様には感謝申し上げます

学童保育のコロナ渦での現状と課題
―奈良市北葛城郡河合町を事例として―

森嶋 宥稀
Hiroki Morishima
清水ゼミ

〈目的〉

新型コロナウイルス感染症流行（以下：コロナ禍）により、以前からある潜在的な問題に加え感染症予防などさらなる課題が深刻さを増している。本研究では、奈良県北葛城郡河合町の学童保育を事例として、運営者、指導者、利用者のコロナ禍の現状を把握することで、今後の学童保育のあり方の知見を得ることを目的とする。

〈方法〉

河合町子育て支援課、学童の現場の指導員、河合町教育委員会に対してはヒアリング調査、学童利用児童の保護者には、アンケート調査を実施した。

〈まとめ〉

● 学童運営の現状と課題

急遽、一斉休校が行われたため、学童がその受け皿となり、長期休暇中と同様の運営体制が求められた。そのような状況下で複数の課題が浮き彫りとなった。

・一斉休校中の人員不足

開園時間が長くなったことにより、通常授業時の学童保育と比べ、人員を多く確保する必要があったが、急な要請であったため、指導員の予定が合わなかった。

さらに、長期休暇中の人手不足の解決策の１つであったボランティアの募集も、感染予防の観点から行われなかった。これらにより、人員が不足し、やむなく市の職員や特別支援学級の教諭が支援した。

・コロナ禍での教室不足

コロナ禍では、一般に密を防ぐ対策が必要とされているが、コロナ禍に対応した教室の基準は決められていなかった。

また、仮にそれぞれの児童の間隔を２ｍ開けるとして、所要面積を換算すると、既存の部屋では収容人数に対して広さが不足する。空き教室を利用する方法も考えられるが、その場合、指導員の数を１教室増やすごとに２名増員する必要があり、人員確保が困難な現状のままでは、難しいことが分かった。

● 学童利用児童の現状

一斉休校中、学童契約者の利用児童数は全体の36％に止まり、半数以上が利用を控えていた。

・学童利用を控えた保護者

利用を控えた理由として感染予防のためとの回答が最も多く、学童からの自粛要請があったからという回答を大きく上回った。自粛中の児童を見ていた人については母親が37％と最も多く、次いで祖父母の27％であった。

・学童を利用した保護者

学童を利用した児童の保護者のうち利用を減らしたかったが仕事の都合がつかなかった（27％）、仕事の都合のつく範囲で利用回数を減らした（18％）との回答が見られた。一方で、感染の懸念はなかったとの回答が21％見られ、利用者の考えは二極化していることが分かった。

・再び一斉休校になった際の利用

今回の一斉休校中に学童を利用しなかった保護者のうち、再び一斉休校になった際には利用すると回答した割合は半数以上にのぼった。

河合町学童保育が公設公営であることを活かして、他の地域で実践されているような、河合町役場を中心に地域住民の方々と連携をとることが必要である。さらに小学校と学童保育は同じ課題を抱えているにも関わらず連携がとれていないため、子育て支援課と教育委員会が協力しあえる環境を築くことが重要であると感じた。

謝辞：本研究に協力して頂いた河合町子育て支援課、教育委員会、学童支援員の皆様、学童利用児童保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

ユニフォームに対する色彩のイメージ評価
ーサッカーを例としてー

新 隆太
Ryuta Atarashi
李ゼミ

〈目的〉

スポーツのユニフォームとは、団体競技においてはチームとして統一性を持った服装のことであり、スポーツ種目の400種以上のすべてにおいてユニフォームが使われ、その数は数えきれない。形と色彩の異なる数多くのユニフォームが用いられ、その目的は統一性、優越感、象徴性など様々であるが、色彩による影響が考えられる。組織・団体のメンバーにおいて仲間意識を芽生えさせるうえで、同じユニフォームを身につけることは非常に有効な手段である。また、球技によっては、対戦相手同士で色が異なるようにする措置がとられ、視覚的区別はもちろん、色による心理的な影響を及ぼすことが考えられることから、本研究では、団体競技の球技の中で世界での競技人口が上位を占めているサッカーに注目し、サッカーに対するユニフォームの色から受ける視覚的影響があると仮定し、強く見える、素早く見えるなどユニフォームの種目に適する色について検討する。特に、コロナ禍で自宅での観戦者の立場から、画像におけるサッカーのユニフォームに対する色彩のイメージについて検討を行う。

図1　SD法に用いた画像試料

〈方法〉

①試料作成：実在する赤系と青系のユニフォームの色から明度と彩度の異なる各5種類のユニフォームをAdobe Photoshopにより作成した（図1）。
②被験者実験：10代～20代の男女、計40名（男性20名、女性20名）を対象に画像試料をランダムに提示し、SD法により、5段階で評価してもらった。また、ユニフォームに対する総合得点を5段階評価（1～5点）で行った。

〈まとめ〉

「暗い」「重い」と評価されているユニフォームでは「大人っぽい」「頼もしい」など好印象に評価されているものが多い。青系のユニフォームでは「派手」「陽気な」と評価されていたものは「弱々しい」「弱気」「頼りない」と評価される傾向がある。「暗い」「重い」と評価されているユニフォームは明度を示すLv値が低い傾向が見られたことに対し、「派手」「陽気な」と評価されていたものはLv値が高い傾向が見られた。男女共にLv値が低いほうが好印象の評価であった。赤系のユニフォームでは彩度が高いものが好印象の評価であった。

サッカーのユニフォームに最も好ましいと評価されたのは試料R8である。試料R8の特徴としては「重い」「大人っぽい」「頼もしい」と評価された。そして、赤系のユニフォームでは彩度が高いものが好印象と評価された。5点満点の結果と見比べても、「重い」「大人っぽい」「頼もしい」が評価されると総合得点では上位となった。これにはLv値が低いものが該当している。Lv値が高い、すなわち、比較的明るいと感じられると、「子どもっぽい」と評価され、好まれないことが明らかとなった。

フィジーカーにおける審美的な肌の色に関する研究
―フィジーカーと一般人を比較して―

北村 航太
Kota Kitamura

李ゼミ

〈目的〉

近年の、パーソナルジムや24時間営業フィットネスジムの拡大など、世間はフィットネスブームに沸いている。フィットネスブームの背景には、人々の「健康意向」がある。「健康」とは異質のファッション「美」の要素を持っており、それがフィットネスの普及と定着の過程で重要な役割を果たした。そのことは、1980年代のエアロビクス大流行によく示されている。「美」の要素の上で肌は、人間にとって最も目にする身近な認識対象の一つである。肌の外観の特徴を決定する重要な因子の一つでもある「色」は、不可欠な評価対象である。一方、フィジーク（身体のバランスと形、適度な筋肉量、総合的外見〈肌色、ポーズ、表現力、笑顔、自信〉、カリスマ性、パーソナリティーを競う競技）では、審査項目の一つである「健康的な身体」は明度、彩度の低い肌の色が評価される傾向があることから一般的に日焼けなどを行う。それに対し、一般人とりわけ、女性の多くは、明度が高く、彩度のやや低い色を美しいと捉え、日焼け防止対策を行う。したがって、肌の色への嗜好は、「身体の外観における健康意識」の影響が強いと考えられる具体的事象と思われる。

図1　男・女各12の画像試料

本研究では、肌の色に対する嗜好がフィジークと一般人でどのような傾向を示すのかフィジーク選手権の画像により検討することで、目的に応じた「審美的な肌の色」に対する評価基準を解明する。

〈方法〉

①色彩輝度計よりJBBF主催選手権のホームページからフィジーク画像100枚を選定し、腹部を2ヶ所測定し、その中から24枚（男・女各12枚）を黒色の背景にAdobe Photoshop CS3を用いて試料として作成した。
②フィジーカー（65名）と一般人（87名）を対象に、22の対義語を用い、SD法により－2から＋2までの5段階尺度でイメージ評価を行った。また、それぞれの試料に対し、0～5点までの総合評価をしてもらった。

〈まとめ〉

因子分析の結果より、一般人は明度の高い女性の肌を「美しい」「好き」「あこがれる」と評価している。一方、フィジーカーは、女性の明度の高い肌の色を「好き」「美しい」「女性的」と評価するが、明度の低い肌の色も「男性的」と評価しながらも「好き」「美しい」と評価することが分かる。

男性の試料において、フィジーカーは明度の低い色を「男性的」「親しみがある」と評価する。つまり、肌を焼くことで身体を美しく見せるフィジーカーにとって、男女関わらず、明度の低い肌の色は「美しい」と専門性な観点から評価していることが分かる。すなわち、目的に応じた「審美的な肌の色」に対する評価基順が明らかとなった。

自動車における色と形状の適合性に関する研究

楠 知也
Tomoya Kusunoki

李ゼミ

〈目的〉

日本では8社で9タイプの車が生産され、使われているボディーカラーの種類は約150色であり、形と色の組み合わせによる数多い種類が存在する。国内で販売台数が最も多い白のハッチバックはどのように評価されているのか、最も人気のある車の形に適している色と適していない色は何か、その車の色と形がどのように評価されているのか、また、単なる乗り物の手段として使われている車もさることながら、自分の好みが反映された車の色と形に注目し、車を選ぶ指標は何かについて色と形の観点から検討を行った。

〈方法〉

1)アンケート①～④では形状と色の適合性の関係について、画像によるイメージ評価を、スマートフォンにより男女約100名を対象に非対面形式で行った。

2)アンケート⑤ではアンケート①～④結果から画像試料(図2)を作成し、20～60代の男女31名を対象に、SD法を用い9項目の評定尺度により1～5までの5段階尺度でイメージ評価を行った。

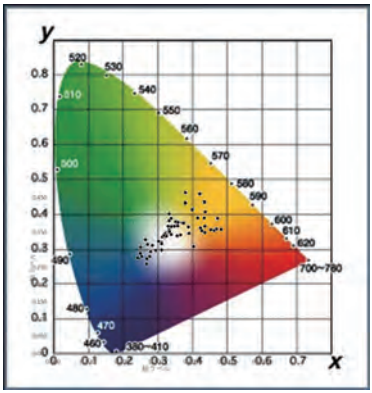


図1　xy色度図における試料の分布図

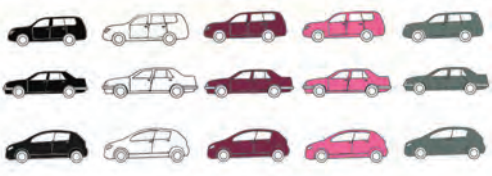


図2　SD法に用いた画像試料

〈まとめ〉

販売台数が最も多い白のハッチバックに対し「乗りたい」「かっこいい」「好き」と評価されている。また、最も評価の高い車の色と形は白のSUVという結果となり、全体的に各車の形に適している色を車の形と組み合わせた際に明度と彩度が低いものが適していると評価される傾向がみられた。また、イメージされる色として、世間に多く出回っているものであることから、車の色と形状の適合性は、自身の認知が評価基準になっていることが分かる。緑色は予備調査では、適していない色として多く挙げられていたが、イメージプロフィールの結果から見てみると、比較的「乗りたい」「かっこいい」と評価された。これは、同じ緑色でも明度と彩度の変化による画像試料に対する評価が考えられる。すなわち、低明度で低彩度の緑色は高く評価される傾向がある。全体的に、ピンクは評価が低く、イメージしにくいと評価された。相関行列からみると、「乗りたくない－乗りたい」と「嫌い－好き」の関係性が高いと言える。このことから、派手な色やイメージしにくい色でも、車を選ぶ指標は好みによる評価が最も影響していることが明らかとなった。

高齢者施設のホームページからのイメージ評価
―個室を中心として―

釣本 真央
Mao Tsurimoto

李ゼミ

〈目的〉

高齢化とインターネットの使用率の増加により、高齢者自身や高齢者の家族が高齢者施設を探す際に、インターネットで検索し、ホームページにより評価を行うことを仮定し、高齢者施設のホームページの画像からどのような印象を受けるのか、とりわけ、1日中最も長い時間を過ごし、プライバシーを確保する居室について、どのような床や壁、家具などによりイメージされ、どのような影響をもたらすかについて検討する。

〈方法〉

①高齢者施設のイメージについての予備調査②インターネット上で公開されている高齢者施設から114施設に絞り、窓やベッドの配置などが類似した構図から18枚を選定。Google formsにてアンケートを作成し、スマートフォンによる非対面形式の調査。③②の結果により10枚の試料（図1）を用い、SD法による被験者実験を行った。感情尺度をインテリア関連に用いられている形容詞から20対語とし、－2から＋2までの5段階尺度とした。30代以上の男女50名（男女各25名ずつ）を対象とし、スマートフォンに画像試料を表示させ、回答用紙に記入してもらった。

〈まとめ〉

明るいと評価された試料では、他の形容詞項目で全体的に良い評価となり、暗いと評価されている試料では、他の形容詞項目では比較的低評価となったことから、「明るさ」が評価に影響をもたらすのではないかと考えられる。しかし、この「明るさ」というのは実際の画像の明度ではなく、人が目で感じた総合的なイメージであると考えられる。「暗い－明るい」は「閉鎖的な－開放的な」と相関が高く、また、「閉鎖的な－開放的な」は「好ましくない－好ましい」「好き－嫌い」と相関が高いことから、開放的で好ましいものは、明るく見えると考えられる。

すべての試料間に大きな差が見られず、特に「どちらでもない」の回答が多かったのは「危険な－安全な」の項目であった。介護現場では安全性が非常に重要な項目であるが、インターネットによる評価では安全性が考慮されていない。また、すべての試料において評価が低い項目は、「平凡な－個性的な」「地味な－派手な」であり、この2つの形容詞項目は、「住みたくない－住みたい」と相関が低く、高齢者施設に個性的で派手なデザインが求められていないと考えられる。

図1　画像試料

インターネットショッピングにおける商品の背景色に関する研究 ―ファストファッションの公式ホームページを例として―

西川 季輝
Toshiki Nishikawa
李ゼミ

〈目的〉

情報社会の中、情報収集のための個人における手軽な手段としてスマートフォンであり、その保持率は2016年の56.8%から2018年には64.7%となった。また、モバイル端末全体としても同年に84.0%と増加傾向に伴いネットショッピングの普及率も10代56%、20代78%、30代79%、40代69%と若者中心に大きく上がっている。ファッションのカテゴリー別に注目しても、国内ファッション・アパレルのEC市場規模において2019年には約19兆円にのぼり、毎年5～6%以上の成長率で市場が拡大している。従来のアパレル業界はECよりも店舗が主流であった。しかし、近年では情報社会の発展により、店舗で拝見してECで購入する人、またECのみで商品を検索し購入をする人が多い傾向である。それにより、ECの利用において、商品をインターネット上、すなわち画像における視覚的評価が重要であると考えられる。そこで、デザイン、素材などのアイテムを含む商品の見せ方として、背景色による商品評価への影響が考えられる。本研究では、商品に対する背景色から商品の見え方に影響すると仮定し、ファストファッションの公式ホームページの背景色と明度と彩度が異なる背景色を作成し、消費者がどのように評価しているのかについて検討を行う。

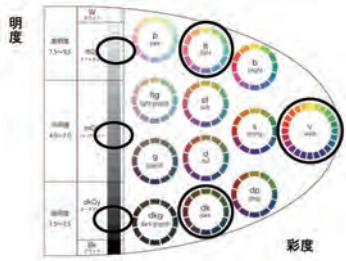


図1　PCCSトーンにおける試料の選定

〈方法〉

①試料作成：背景色は高明度（公式ホームページ）とPCCSトーンの中明度（Gy-5.5）、低明度（Gy-2.5）の明度3段階にし、トップスにはPCCSの色相環から赤（2:R）、緑（12:G）、青（16:B）の3色をビビットトーン、ライトトーン、ダークトーンの3つのトーン（図1）から選定し、ボトムスには黒をAdobe Photoshopにより施し、試料として用いた。（図2）

②被験者実験：20代の男女40人（男性20名、女性20名）を対象にスマートフォンにより非対面形式で22対語の感情尺度の用語を用い、SD法により1～5までの5段階尺度でのイメージ評価と1点～5点まで総合評価を行った。

図2　アンケートに用いた27試料

〈まとめ〉

本研究では背景色による商品のイメージ評価に影響すると仮定し系統立てた画像試料により検討を行った結果、男性と女性で異なる評価がみられた。男性では商品を評価する上でイメージプロフィールから目立つ、派手な色に対する評価が高く、総合評価と明度差の相関関係から、背景色に影響されにくく、トップスの色のみに着目して評価をしていると考えられる。一方、女性では同トップスの試料でも背景色によりイメージプロフィールの評価が異なったこと、背景色とトップスの明度差が大きいほど総合評価が高い傾向がみられたことから、色相より明度差による影響が大きいと考えられる。

種別名から受ける大学名のイメージカラーに関する研究

山本 優雅
Yuga Yamamoto

李ゼミ

〈目的〉

本研究では、『固有名詞＋種別名＋大学』で表記されている大学名から固有名詞を除いた、工業大学、経済大学、産業大学、国際大学、教育大学、女子大学、薬科大学、看護大学、音楽大学、芸術大学、医療大学に着目し、『種別名＋大学』からどのような色のイメージを受けているのか、文字のみに色を施した画像試料からどのようにイメージされるのか、それぞれの大学ロゴマークの色とイメージカラーから検討を行った。

〈方法〉

①10代～20代の男女120名を対象に、スマートフォンによる非対面形式で、それぞれの種別名からイメージされる8種の選択肢（赤系、橙系、黄系、緑系、青系、紫系、白系、黒系）から一つ、選択してもらった。
②①の結果からAdobe Photoshopを用いて、「種別名＋大学」に色を施し、それぞれの大学名に対し5つの画像試料の中から最もイメージしやすい色を選択もらった。
③②の結果から12の画像試料（表1）を選定し、21個の対語を用い、SD法により-2から+2までの5段階尺度でイメージ評価を行った。

表1　SD法に用いた画像試料の色諸元

資料番号	大学名	Lv	x	y
No.1	経済大学	89.5	0.246	0.248
No.2	女子大学	33.47	0.356	0.253
No.3	産業大学	28.17	0.301	0.42
No.4	国際大学	92.31	0.482	0.357
No.5	工業大学	103.3	0.392	0.35
No.6	教育大学	70.5	0.258	0.25
No.7	芸術大学	30.17	0.226	0.177
No.8	看護大学	47.19	0.616	0.341
No.9	音楽大学	133.35	0.4116	0.413
No.10	教育大学	30.08	0.527	0.341
No.11	医療大学	28.44	0.199	0.168
No.12	薬科大学	39.79	0.329	0.337

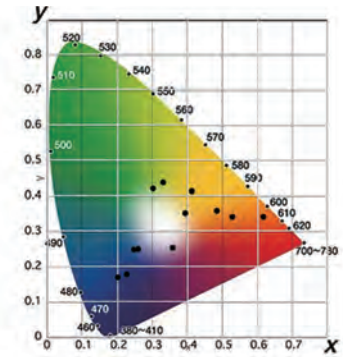


図1　XY色度図における試料の分布図

〈まとめ〉

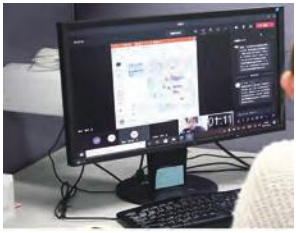
工業大学は赤系、経済大学は橙系、産業大学は緑系、国際大学は赤系、教育大学は橙系、赤系、女子大学は赤系、薬科大学は緑系、看護大学は赤系、音楽大学は橙系、芸術大学は紫系、医療大学は青系が最もイメージされる結果となった。使われているそれぞれの大学ロゴマークの色とアンケート結果のイメージカラーを比較してみると、工業大学、経済大学、国際大学、女子大学では一致したものの、それ以外では一致せず、それぞれのロゴマークの色からの関連性は見られない。色相が同じでも種別名が異なると、評価に差が見られた。一方、同じ種別名でも明度、彩度が異なれば、評価が異なる結果となった。また、大阪と奈良の地域別では、教育大学の大学名に対し、大阪では赤系、奈良では橙系がイメージされた。また、因子分析の結果から、奈良では、「派手な」のような色による評価が行われ、大阪では「雰囲気が伝わる」、「知的に見える」のような総合的な項目により評価される傾向がみられたことから、大阪では種別名を含む大学が多く存在することが評価の要因として影響されたことと考えられる。

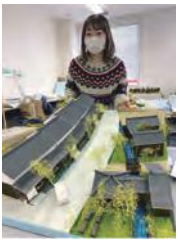
制作風景

講評会風景

論文講評会 ☞ 2021年1月23日(土) オンラインにて

制作講評会 ☞ 2021年1月24日(日) KB04・RBラウンジにて





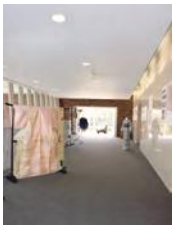
選抜講評会 2021年2月9日(火)

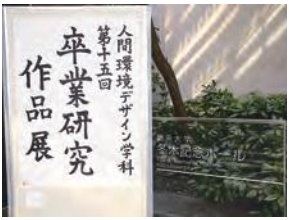
選抜発表者 大目 潤　海江田 和輝　久保 更紗　栗原 大地　寺田 希歩・森田 百香
稲井 葉澄　猪野 紗也華　上田 琴乃　岩城 柚葉　太田 琴音　櫻井 香月
三歩 莉奈・西岡 あさひ　辻 沙希　福嶋 佳奈子
松浦 直香　山本 美乃里

以上 16組 18名

卒業研究展示会

2021年2月27日～2021年3月2日
畿央大学冬木記念ホール周辺にて開催




人間環境デザイン学科
第十五回
卒業研究
作品展

ゼミ集合写真

AZUMA

KATOU

SHIMIZU

CHEN

FUJII

MIIDA

MURATA

LEE

講 評

畿央大学人間環境デザイン学科では、現代社会のものづくりの基本となる「ユニバーサルデザイン」をテーマに、健康で心豊かに生活できる環境を創造する知識と技術の修得に取り組まれています。第15回卒業制作・論文作品集に収録されている作品の写真や論文記録は、学生の皆さんが4年間の学生生活で培った知識、技術、体験の集大成です。「建築・まちづくり」、「インテリアデザイン」、「アパレル・造形」の各分野から掲載されている様々な写真や記録は、作品や論文が出来上がるまでの苦労や完成した時の達成感を物語っています。多彩な卒業研究の作品には、使いやすさだけではなく、美しさと独創性が表現されています。自分の問題意識の中からテーマを設定し、多視点からデザインを考え、試行錯誤のプロセスを踏んだ問題解決の帰結が、卒業制作・論文作品として結実したものと思います。

環境、建築、デザインの領域における総合的な造形教育を通じて、本学の建学の精神の一つである「美をつくる」を自ら身を持って体現しているのが、人間環境デザイン学科で学ばれた皆さんではないかと思います。本学科で修得した造形に関する専門的な知識やその背景にある文化や諸科学についての総合的な教養を基盤として、今後ともより一層創造的思考を働かせ、日本と世界の文化の創造発展と社会に貢献して頂くことを心より祈念しております。

最後に、卒業までの間、親身にご指導頂いた先生方に感謝申し上げるとともに、今後とも卒業生を温かく見守って頂くことをお願いしまして講評とさせて頂きます。

健康科学部 学部長
植田 政嗣

みんな、よく頑張った。
君たちの努力の成果は、私たち教員の期待を超えるものでした。
コロナウイルス感染防止のため、大学に集まって、みんなでワイワイ言いながら、卒業制作や卒業論文に取り組めない状況の中で、自宅に籠もらざるを得ない時間を、思索を深めるために使って、一人でよく頑張った。
まさに、「禍を転じて福と為す」。
江戸時代、子弟教育に使われた、「実語教」の中に次の言葉がある。
「倉の内の財は朽つることあり。
　身の内の財は朽つることなし。」
大学生活の最後で経験した努力は、君たちの将来の宝になることは間違いない。

人間環境デザイン学科 学科長
三井田 康記

　みなさんがこの冊子を手に取っている姿を想像しながら書いています。今年度は制約があるなか、各自が工夫して実践した成果となりました。担任として入学時から見守ってきた学年でしたので、四年間の成長に感無量です。
　この一年がこれまでの人生で最も努力した年であって欲しいと願っていました。
　みなさん、どうでしたか？深く考え、悩んだ人ほど解決の糸口をつかんだ時の感動は大きかったことと思います。この経験は卒業後何年たっても、懐かしく思い出される自分への勲章です。
　どうか、自信をもって巣立ってください。ご卒業を心より祝福しています。

人間環境デザイン学科 主任
東 実千代

　今年度は新型コロナウイルスによる未曾有のパンデミックで、卒業研究を満足にできないと思っていました。例年よりかなりクオリティが落ちてしまうのは仕方ないと。ところが卒業研究・作品を見て驚きました。全ての研究・作品が素晴らしく輝いていました。それぞれの人が困難を乗り越え最大限の努力を積み重ねてこられたのでしょう。作品には正直に反映されるものです。私事ですが、僕も今年度で卒業します。あなたたちのように十分にやりとげたわけではないので卒業という言葉はふさわしくないのですが、一緒に卒業できることを光栄に、誇らしく思っています。本当にご卒業おめでとうございました。

加藤 信喜

ご卒業おめでとうございます。

皆さんと、雨の中、明治村を見学した新入生研修が昨日のことのように思い出されます。時の流れははやいものと思います。

一方、卒業研究では、今日我々が直面する課題に難しくとも取り組み、暮らしやすい人間環境達成のための提案を行う姿に感じ入りました。本学で過ごした4年間で、皆さんが立派に成長されたことをうれしく思います。

この卒業研究の経験を生かし、これからも、何事もまじめに一生懸命取り組んでみましょう。それが認められれば新たなチャンスにつながる、また、そこで頑張れば次のチャンスにつながる・・・きっといい結果が訪れることでしょう。

チャレンジ精神を持ち、社会で大いに羽ばたいてください。

西山 紀子

過酷な一年に耐え、見事な成果を出した君たちに、心からの拍手を送ります。おめでとう。君たちは、自身の才能や努力はもちろん、若者たちが災厄になど負けはしないことを立派に証明してくれました。

無論、努力が認められず悔しい思いの人もいるでしょう。でも、後悔しないで下さい。「いつか空を飛びたいと思っている者は、まず立ちあがり、歩き、走り、登り、踊ることを学ばなければ、飛ぶことはできない（ニーチェ、中略）」のです。まずは立ち上がった君たちにも、エールを送ります。

それにしても、本当なら卒業研究の日々はもっと濃密な時間だったはずです。友と競い合いながら、共に世界を考え未来を語り合う機会は奪われてしまいました。僕も、君たちにまだまだ話したいことがあったのに、本当に残念です。しかし、悲観からは何も生まれません。いつか夜は明けると信じましょう。そして、その時こそ、再び乾杯を！

藤井 豊史

年が明けても、卒業研究〆切期日間近になっても、R棟の3階は静かでした。
まさにこれが今年みなさんに強いられた卒業研究のスタイルでした。内心ひどく心配していましたがそれは杞憂でしたね。みなさんはその限られた時間、限られたスペースの中で精いっぱい努力し成果をあげ本当に素晴らしいと思いました。
今回のように人生には予期せぬことが起こります。
ことが起こった時に自らその問題を解決しようとする「問題解決能力」が求められます。
大学生活そして卒業研究で培ったその「問題解決能力」を社会に出て活かしてください。
R棟3階から心の中でエールを送ります。

村田 浩子

コロナ禍という経験したことのないことだらけの2020年度の1年間、大学4年間の集大成として卒業研究を仕上げ、非対面での卒業研究発表、卒業展まで、大変お疲れ様でした。「予期せぬ」「想定外」の出来事は貴重な経験となったと思います。予測不可能な時代を生きる今、畿央大学で学んだことをお仕事に活かし、社会の中でしっかり立ち、自分を信じ、自分の道を生きてほしいです。いつも陰ながら応援しています。卒業おめでとうございます。

李 沅貞

ゴールを見据えて、見守り、時に助言を行うことが、皆さんに対する最後の役目だと考えています。しかし、今年は、私自身もこの環境を見通すことが難しく、困惑と憂虞の中、進めてきました。しかし、こんなちっぽけな心配をよそに、皆さんは果敢に食らい付き、環境に順応して、卒業研究を成し遂げました。今年は、例年以上の成長を見たように思います。皆さんの努力にあらためて敬意を表したいと思います。

清水 裕子

一生に一回しかないと言われている卒業制作・卒業論文は如何でしたか？うまく自分の最大限を発揮して、最後に自分も満足している結果が出ましたか？この時期に様々な制限の中で、退屈せず、頑張ってきた君たちを褒めたいです。このような困難の時期に乗り越えれば、将来のいろいろなことにも堂々と挑戦できるでしょう。新たな道に、勇気と自信を持って、邁進しましょう。

陳 建中

講評会後、「卒業研究楽しかったですか？」と出来るだけ多くの人に質問しました。自信を持って、「はい！」と返事をしてくれた皆さん。たくさんの制約がある中で、楽しみながらやり遂げてくれたことに喜びを感じています。毎日検温、登校時の事前連絡、学内作業の制限、どれも異例の約束事でしたが、最後まできちんと守って行動することができましたね。そんな素直な心をいつまでも忘れないでいて下さい。
どんな素敵な4年間を過ごしてきたのか、いつの日かゆっくりお話を聞かせてほしいです。皆さんの先生として、そして先輩として、母校畿央大学より応援しています。

小松 智菜美

畿央大学　健康科学部
人間環境デザイン学科　教員

教授

学部長　植田　政嗣
学科長　三井田　康記
主任　東　実千代
西山　紀子
藤井　豊史
加藤　信喜
村田　浩子

准教授

李　沅貞

助教

清水　裕子
陳　建中

助手

小松　智菜美

編集委員

陳　建中
小松　智菜美
麻田　彩花
梅林　沙采
大櫛　夏音
大嶽　慧
岡所　絵里奈
岡本　萌樺
川西　梨々花
木﨑　一朗太
北野　芹香
木村　瞳
桐間　康彰
周藤　希実
角谷　桜
中林　ゆき
中道　陽夏
中山　瑞貴
八田　采芽
細田　日向子
細見　菜月
松村　成貴
祷　開斗
後藤　文太
中村　理紗
増井　駿
室　二葉
八島　美来
吉川　理那

以上

「卒業制作・論文作品集」15

2021 年 3 月 13 日 発行

発行　畿央大学
　　健康科学部　人間環境デザイン学科
　　代表　学長　冬木 正彦
　　〒 635−0832　奈良県北葛城郡広陵町馬見中 4−2−2
印刷　株式会社　明新社